様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月 １９ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ２３３２６

研究課題名（和文）ベトナム人日本語学習者の語彙学習ストラテジーに関する認知心理学的研究

研究課題名（英文）Cognitive Psychology study on vocabulary learning strategies of Vietnamese JFL learners

研究代表者
天野　裕子（AMANO, YUKO）

関西大学・国際教育センター・留学生別科特任常勤講師

研究者番号：８０８４８１７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ベトナムの日本語学習者の語彙学習ストラテジーの使用について、質的調査・量的調査を行い、学習歴による差異や、心理的要因との関連を明らかにした。学習歴による差異としては、学習歴が浅い学習者は新しい語彙の意味を知るための決定ストラテジーの使用が少ない傾向にあり、学習歴が長い学習者のように自身の学習状況や辞書などのツールの長所と短所、学習目標を自身で把握できておらず、授業外の自主的な語彙学習ができていなかった。さらに、心理的要因との関連については、語彙学習ストラテジーと自己決定レベルの高い内発的動機づけ、未来への長期的な展望である目標指向性について関連が見られることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は認知心理学の観点からのストラテジー研究であり、ベトナム語を母語とする日本語学習者の日本語の語彙学習ストラテジーの使用傾向を明らかにした上で、習熟度や動機づけ、目標指向性という心理面との関連を明らかにし、学習ストラテジー研究をさらに加速させることに貢献ができたと考える。さらに、ベトナム語母語話者を対象とした日本語の習得研究は量的に少なく、本研究は当該分野の基盤的役割を果たすと考えられ、本研究の成果はベトナム語と同様に、漢字とは別の文字を用いながらも漢語の音と意味の強い影響を受けている韓国語・朝鮮語を母語とする学習者への日本語教育の参考資料となり得る。

研究成果の概要（英文）：This study qualitatively and quantitatively investigated the vocabulary learning strategies of Vietnamese learners of Japanese as a Foreign Language. The results revealed differences by learning history and the relationship between vocabulary learning strategies and psychological factors, showing that learners with a short learning history tended to use fewer decision strategies to learn the meaning of new vocabulary; were less aware of their own learning status, the advantages and disadvantages of tools such as dictionaries, and their own learning goals; and were less able to learn vocabulary independently outside of class. In addition, the relationship between psychological factors and vocabulary learning strategies was found to be related to intrinsic motivation and goal orientation, which is a long-term vision for the future.

研究分野：日本語教育

キーワード：語彙学習ストラテジー　ベトナム語母語話者　日本語学習　漢越語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ベトナムの日本語学習者は、2018 年には世界第 6 位（174,521 人）の学習者数（国際交流基金 2020）となり、そのうち高等教育機関で日本語を学ぶ者は約 20%（31,271 人）となっている。その大きな原因としては、2009 年に日越経済連携協定（EPA）が締結されて以降、日系企業のベトナム進出、ODA のプロジェクトの急増、文化交流など、様々な分野で日越交流が盛んになったことが挙げられる（Dao, 2018）。このような状況から、同一の教育機関においても複数の学習目的の学習者がおり、教師が一律の語彙教育を行うことには限界があり、自律した学習が必要とされる。その中でも、語彙は知っている語彙が少なければ、「読む・聞く・書く・話す」というどの能力も十分に発揮できないために重要であり、自律的に学習を進めるためには語彙学習ストラテジーを効果的に使用する必要がある。一般的に学習ストラテジーとは、学習を容易にするために学習者が選ぶ行動や思考を指す。Gu（2010, p. 116）は「語彙学習ストラテジーは外国語学習の語彙の発達を記述、説明するのに欠かせないもの（筆者訳）」であり、「学習者に何を、どのように学ぶかという思慮深い選択をさせてくれるツール（筆者訳）」だと述べており、学習者それぞれが適切な語彙学習ストラテジーを使用することができれば、語彙を学習する苦労は軽減され、学習者は自律的に学習を進められると考える。

また、対象をベトナムの日本語学習者に限定したのは、日本語の語彙学習にはベトナム語に含まれる漢越語の影響があると推測したためである。現代ベトナム語には、漢語由来の漢越語が含まれており、日本語の漢語とは音や意味が一致しない漢越語もあるが、日本語の漢語と意味が一致または類似する語は多く、音韻面でも現代日本語の漢語音との類似が指摘されている（松田, 2016）。このことから、ベトナム語母語話者は日本語の語彙学習に漢越語の知識をストラテジーとして用いる可能性があり、中国語母語話者とも、非漢字圏の学習者とも、異なる語彙学習ストラテジーの使用傾向が見られる可能性があった。

２．研究の目的

本研究の主な目的はベトナムで日本語を学習するベトナム語母語話者がどのような語彙学習ストラテジーを使用しているのかを明らかにすること、及び語彙学習ストラテジーの使用にはどのような要因が関連しているのかを明らかにすることである。具体的には、語彙学習ストラテジーの使用傾向、学習歴による差異、動機づけや目標指向性などの心理的要因との関連を調査し、日本語学習者の語彙学習の過程の一端の解明を試みた。

３．研究の方法

学習ストラテジーの研究手法は様々であるが、多くの学習者のデータを収集するためにアンケート調査を用い、足りない情報を補足するためにインタビュー調査を行った。アンケート調査については 2018 年 3～5 月にベトナムの 4 つの大学で調査を行っていたが、2019 年からは質的調査の結果とあわせて、考察を行った。また、インタビュー調査については、2017 年 3 月に学習歴 3 年以上の学習者に調査を行っていたが、学習歴が浅い学習者との比較が必要であると考え、2020 年 2 月に学習歴 1 年未満の学習者を対象にしたインタビュー調査を行うことにした。

４．研究成果

分析の結果、ベトナム語母語話者の語彙学習ストラテジーの使用傾向、学習歴による差異、動機づけ・目標指向性との関連を明らかにした。

【ベトナム語母語話者の語彙学習ストラテジーの使用傾向】

ベトナム語母語話者は「出会った語彙の記憶を強化させるためのストラテジー」についても「新出語の意味を知るためのストラテジー」についても、複数を組み合わせて使用していることが明らかになった。教師が漢越語の知識の使い方を教えてくれた、友人の学習ストラテジーを参考に自分のストラテジーが変化したという発言や、メモや音声データの作成を場面や語彙の難易度によって決めているという発言があり、周りの人たちや辞書などといった外的リソースによって、自身の知識である内的リソースの利用に変化が見られたり、内的リソースによって外的リソースの使用を調整したりしていることがわかった。

さらに、ベトナム語母語話者特有の日本語の語彙学習の特徴として、語彙の表記に強く抵抗を感じていることが明らかになった。インタビューでは、英語の習得経験がある調査対象者の多くが、英語とベトナム語がアルファベット 1 種であるのに対し、日本語は 3 種類の文字があって難しいという旨の発言を行っていた。ある外国語の習得のために使用していたストラテジーは、他の外国語学習にも転用可能である。しかし、ベトナム語母語話者の日本語学習の場合は、母語の

ベトナム語とそれまでに学習した外国語である英語とは表記が大きく異なるために、英語学習とは異なるストラテジーを使用していることが分かった。教育現場においては、日本語学習初期は、特に語彙の表記面に慎重になるべきで、調査対象者達が挙げた漢字のストーリーなどを用いて日本語の表記への抵抗感を可能な限り低減させるべきである。

【学習歴による差異】

学習歴が 1 年未満の学習者は初級の総合教科書を使用し、語彙や文法を一斉授業で学んでおり、総合教科書は通常翻訳された語彙リストが付属している。そのため、新しい語彙の意味を知るために用いる、決定ストラテジーの使用が少ない。しかし、学習歴が長くなると、翻訳されたリストのない日本語のテキストを授業で用いる、日本文化や経済など専門的な授業を受ける、ドラマや映画など生の日本語を教材として用いるといった理由から、決定ストラテジーの使用が増えていた。さらに、学習歴が 1 年未満の学習者は、語彙が身近で具体的なものが多いために、冷蔵庫に日本語の語彙を書いた付箋を貼るといったストラテジーも使用していた。

また、漢越語の推測については、松田（2016）は初級の段階では漢越語によって推測できる語彙が少なく、旧 2 級以上から活用可能な語彙が増加すると述べているが、この調査においても、学習歴が長くなると漢越語の使用が増えることが示唆された。しかしながら、学習歴が長い学習者の全てが漢越語をよく使用しているわけではない。学習歴が長い学習者の中で、漢越語の知識を日本語の語彙学習に用いる有用性については、意見が割れていた。結論として、1 年と比べ、2 年と 3 年は漢越語の使用が多い傾向があると言えるが、実際には個人差がかなり大きいのが漢越語の知識利用である。漢越語を使用する要因、反対に使用しない要因については、学習内容、ストラテジーの教授の有無、学習者の持つ漢越語の知識量など、さまざまな面から検討を行う必要がある。教育現場においては、漢越語の音や意味をどのように日本語学習に用いるか、どのようなメリットとデメリットがあるかを知り、その上で、自身でそのストラテジーを使用するか否かを選択できるようにすると、学習者の語彙の自律学習が進むであろう。

【動機づけ・目標指向性との関連】

Ellis（1995）は学習者の個人差である学習者の学習へのビリーフ、感情、その他一般的な要因が学習ストラテジーに影響を及ぼすと述べたが、本研究においては動機づけ、目標指向性と語彙学習ストラテジーとの間に弱いながらも関連が見られることを示した。具体的に述べると、共分散構造分析の結果、語彙学習ストラテジーと内発的動機づけに正の関連があること、語彙学習ストラテジーと目標指向性に正の関連があること、さらに、目標指向性と内発的動機づけに正の関連があること、目標的指向性と取り入れ的調整との間にやや弱いながらも正の関連が見られるということを明らかにした。語彙学習ストラテジーと内発的動機づけについては、自己決定理論の中で最も自己決定レベルが高いとされる内発的動機づけが高いと学習者は積極的に学習に取り組むため、これらに関連が見られたと考えられる。

また、将来の展望である目標指向性と日本語学習の関連については、ベトナム語母語話者の場合は、目標指向性と語彙学習ストラテジーに関連が見られたことから、将来への明確な計画や目標がある学習者は、語彙学習ストラテジーを多く使用している可能性がある。王（2016）が調査を行った中国と同様に、ベトナムの、特に調査を行ったハノイには、日本語を用いる仕事が数多くある。それに加えて、日本で就労中、または、就労して帰国した親族などが身近にいる学習者が増えている。このような事情から、ベトナムは日本語を用いる将来をイメージしやすい状況にあり、未来展望を明確に持つ学習者は、日本語を用いる職業に就くために、語彙学習ストラテジーを用いて語彙学習に励んでいるものと考えられる。教育現場においては、学習者が就職するまでだけではなく、長期的なキャリアのイメージができるようなアプローチを行うことで、語彙学習ストラテジーの使用が活性化する可能性がある。

＜参考文献＞

王俊（2016）「学習動機と学習行動の変化―中国の大学の日本語学習者を中心に―」東北大学大学院国際文化研究科博士論文

国際交流基金（2020）「日本語教育 国・地域別情報 ベトナム 2020 年度」
＜https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2020/vietnam.html＞
（2022 年 1 月 6 日アクセス）

松田真希子（2016）『ベトナム語母語話者のための日本語教育―ベトナム人の日本語学習における困難点改善のための提案―』神奈川: 春風社

Dao Thi Nga My（2018）「ベトナムにおける日本語教育の事情―現状と今後の期待―」
＜http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/10/sekai-vietnam1011.pdf＞
（2021 年 9 月 21 日アクセス）

Ellis, R. (1995). Interpretation tasks for grammar teaching. TESOL Quarterly, 29 (1), 87-105.

Gu, Y. P. (2010). Learning strategies for vocabulary development. Reflections on English Language Teaching, 9 (2), 105-118.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 天野　裕子
２．発表標題 ベトナム母語話者の日本語の語彙学習ストラテジーに関する質的調査
３．学会等名 比較文化学会 2019年度関西・中国四国・九州3支部合同研究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

天野裕子(2022)「ベトナム語母語話者の日本語語彙学習ストラテジーに関する基礎研究」九州大学大学院地球社会統合科学府，博士論文

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関